

社員の熱中症予防に汗

中国地方の事業者

職場での熱中症対策の強化

- 改正労働安全衛生規則で熱中症のおそれがある作業に関する条項を新設
- 暑さ指数(WBGT)28度以上か気温31度以上の下で連続1時間以上か1日4時間超の作業が対象
- 作業者の熱中症に気づいた際の報告体制を整え、悪化を防ぐ措置や手順も定めて周知を義務付け
- 対策を怠った事業者に6カ月以下の拘禁刑または50万円以下の罰金



建設会社の荒木組が現場の作業員に導入した時計型端末。気温や心拍数などに従ってアラームで注意を促す



山口市の田村ビルズグループは社内掲示でも熱中症対策を呼びかける

身代で... 広島教育センター(広島市)では4〜9月に開く熱中症講座に予約が殺到している。「受講者数は

中国財務局と産業局の新局局長広島市内で会見を開いた。政権の関税に与える影響について考え方を示す中国財務局の局長は中国地方「瀬戸内海を出車や造船などの積し発展してだ」と述べた。影響については

Portrait

山口・柳井で謎解き町歩き



オフィスミゴト社長 芳賀 尚賢さん

山口県柳井市。人口3万人の街で関東から来た一人の男による観光振興への挑戦が始まっている。オフィスミゴト(東京・渋谷)の社長、芳賀尚賢さんが主導し地域ぐるみで6月下旬から始めた「シークレットミュージアム」事業だ。

「各町家の当主が趣味で全国から集めた様々なアートを秘蔵してきたことにしよう」。次々にアイデアが湧き出した。そこから、青森のねぶたを置く部屋や宮沢賢治の銀河鉄道の夜の世界観を再現した小部屋が生

いた。江戸時代の海路の要衝として栄え、全国から人・モノ・文化が絶えず流れ着いたという史実だ。

観光振興、拡張力で挑む

「柳井と言えば金魚ちょうちん。市民が守ってきた街の財産だ。だが、仕掛け方を考え始める際、よそ者である芳賀さんは街を形作ったはずの「北前船文化」が忘れられていることに気づいた。江戸時代の海路の要衝として栄え、全国から人・モノ・文化が絶えず流れ着いたという史実だ。

「各町家の当主が趣味で全国から集めた様々なアートを秘蔵してきたことにしよう」。次々にアイデアが湧き出した。そこから、青森のねぶたを置く部屋や宮沢賢治の銀河鉄道の夜の世界観を再現した小部屋が生

まれた。勝算の根拠は、「カクテル表」と名付けた自作の「マトリックス表」にある。横軸に全展示品、縦軸に「キラキラしてかわいい」「風情がある」「ワクワクする」などとポジティブな感情をすべて並べる。

「それらが何にあてはまるのか丸をつけ、足りない要素を見つけ出す。全展示品を並べても、当然、弱い要素は出てくる。それを補う作業を繰り返す。ここで、多くを後から付け加える拡張性が高い北前船文化が生きてくる。

「意図的に小さくスタートし、拡張性を武器にだんだん魅力を加えていく。開業時に力を全振りしあとは減退するばかり、というレジャー施設が全国に多い中、真逆の戦法だ。

自信の裏付けもある。千葉県の「京成バラ園」のブログやニュースを調べ、斬新な仕掛けによりオールシーズン楽しめる施設に変身させ、集客を過去最大にまで増やした実績だ。

最初に手掛けたのが「使っていない場所を使った」。

芸備線の沿線自治体 増便期間、実証1年間を

中国運輸局は島・岡山両県を芸備線の一部WEST 林業と土木・WEST(鳥取)の新規事業で開業ムシを手軽に室内向け装置のでの販売を始め米穀団体の一人日本米穀商連京・千代田、口販売あっせんび、団体傘下の0の米穀販売店販路にした。

中国

配達・購読のお問い合わせ
0120-211494
7時~21時
鳥岡広取山